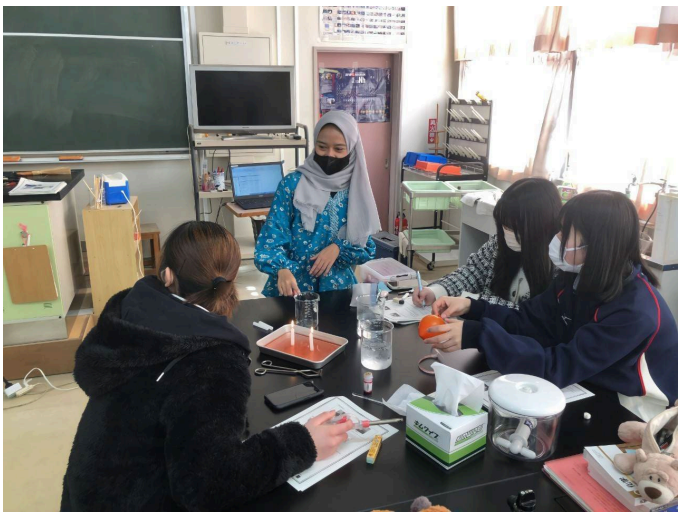
第 2 回東南アジア交換教育実習(SEA-Teacher pilot project 2nd batch)を実施

2023 年 3 月 20 日

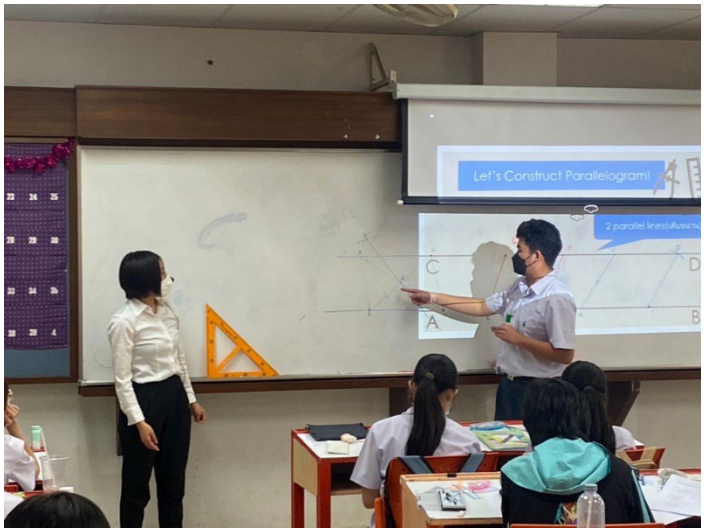
2023 年 2 月 6 日から 3 月 6 日の 1 か月間、本学教育開発国際協力研究センター（CRICED）のコーディネートのもと、教育学類と坂戸附属高校が協働し、東南アジア交換教育実習(SEATeacher pilot project, batch 2)を実施しました。SEA-Teacher Project とは、SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)が実施母体となり、東南アジア諸国の国境を越えて教育実習を行う 2016 年発足のプロジェクトです。 2019 年度の第 1 回目のパイロットプロジェクト後、コロナ禍で見送っていた現地実習ですが、今回第 2 回目の実施が叶いました。筑波大学は、協定校であるコンケン大学(タイ)、インドネシア 教育大学(インドネシア)、セントラルルソン州立大学(フィリピン)の 3 大学から合計 9 名の学生を受入れ、それぞれの大学に 2 名ずつ、合計 6 名の本学学生を派遣しました。タイ、インドネシア、フィリピンからの受入れ学生は附属坂戸高校で実習を行い、最終週にはエセル事務局長を含む SEAMEO 事務局メンバーに対し実習の成果を発表しました。 本学の派遣学生からは「3 か国の学生が、他の 1 か国に集まり、異なる文化の中で実際に英語を使って授業授業をするという体験を通して自分の視野が大きく広がった。授業実習だけではなく、3か国の学生と一緒に現地で生活を共にするということも、大きな学びとなった。将来教員を目指すにあたり、大変貴重な体験となった。」という声もあり、3か国の3組織が、異なる国において協働する体験となったことが伺えます。 SEAMEO の affiliate member である筑波大学は、現在日本で唯一の SEA-Teacher Project への参加大学であり、SEAMEO からも今後このプロジェクトの魅力を広く日本の多くの大学に周知していく役割を期待されています。

本学を訪問中の SEAMEO 事務局長らと受け入れ学生達の集合写真



筑波大学附属坂戸高校での授業実習の様子

フィリピンの協定校での集合写真



タイの協定校での実習授業の様子